

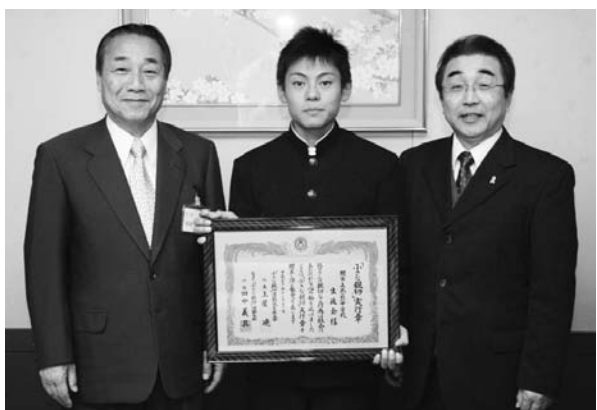
坂田池の 池干し 「げんごろう」



全国豊かな海づくり大会を前に、昔の豊かな自然環境を取り戻そうと、池尻の坂田池で12月13日、池尻地域資源保全組合が中心となって約20年ぶりに池干しが実施されました。池からは特定外来生物に指定さ

れているブラックバスが182匹、ブルーギルが28、106匹捕獲され、在来魚はコイ24匹、フナ6匹、ドジョウ3匹でした。また、会場では、冷えた体を温めてもらおうと、集まった人たちに円空汁が振る舞われました。

あんな事、こんな事



小さな親切 大きな感動

武芸川中学校生徒会が「小さな親切」実行賞（「小さな親切」運動岐阜県本部主催）を受賞し、同校を代表して生徒会長の浅野晃史君と伊縫正克校長が市長に受賞のあいさつに訪れました。この賞は、親切な行いを実践している個人や団体に贈られるもので、同校生徒会が4年前から実施している武芸川花火大会後の早朝清掃活動などの行いがたたえられました。

「信緑宣言」の実践をたたえて

「第5回道徳教育奨励賞」（日本会議県本部主催）で緑ヶ丘中学校が3年連続3回目の最優秀賞に輝き、同校生徒会長の川村将輝君と副会長の廣山拓巳君、栗山守校長が市長に受賞の報告をしました。よりよい仲間づくりを宣言した同校の「信緑宣言」に基づき、「いじめゼロ」への取り組みや、地域住民の皆さんとの温かい人間関係作りに取り組む姿が認められて受賞に至りました。





師匠から弟子へ 受け継がれる伝統

安桜小学校で鼓笛の引き継ぎ終了式が行われ、保護者や見守りサポートが見守る中、40年以上続く同校伝統の鼓笛が6年生から5年生に引き継がれました。今年はインフルエンザの影響で、引き継ぎが11月に入ってから始まり、例年より期間が短かったのですが、週2回の総合学習の時間や30分休み、昼休みを使って師匠(6年生)が弟子(5年生)に個別指導する形で行われました。

考えよう 森と水のこと

わかさ・プラザで12月12日、水の恩恵を受けている農業者が中心となり水源林の大切さを考え、これらの保存に向けた活動を展開していくことを目的に「水と土と水のシンポジウム in せき」が開催されました。会場では、オルタナティブ・コミュニケーションズの金子照美所長による基調講演のほか、森林整備などに取り組んでいる3団体の事例発表などが行われました。



油断は大敵

桜ヶ丘小学校で12月16日、中濃地区交通安全協会桜ヶ丘支部(兼子芳雄支部長)から同校へ交通安全旗100本が寄贈されました。兼子さんは児童代表の横田大悟君(6年生)に旗を手渡し、「この旗を持っているからといって油断せず、自動車の停止や道路の左右をちゃんと確認して事故に遭わないようにしてください」と注意を促しました。

夕暮れ時は気をつけて

12月15日、年末年始の交通安全県民運動に合わせ、中濃地区交通安全協会武儀支部の土屋戒造支部長ほか役員3人が武儀中学校で、自転車のかごを覆う反射材付きゴムネットとインフルエンザ予防のマスクを、下校する生徒に配布しました。同支部では、日が短いこの時期に「日暮れ時の街頭指導」として4年前から行っています。



こぼれ話



市内のある方がとても興味深いことに挑戦しています。それはナマズの養殖です。岐阜県河川環境研究所や農家の方の協力の下、生まれたばかりの小さなナマズを田植えで水を張った田に放流したのは今年の6月でした。ナマズの稚魚は体長約1センチ。姿はまるでオタマジャクシ。それがエサも豊富な広い水田でみるみる大きくなり、2週間で5センチほどに。池に移して3カ月もすると何と40センチ以上の

立派な大きさに成長しました。河川環境研究所の方のお話によると、ナマズは食欲が大変旺盛で、ぶつかったものは何でも食いつき、時には共食いもしてしまうそうです。先日、ナマズの試食会が開かれ、早速食べてみたところ、これがとても美味!初めてナマズの蒲焼を食べたのですが、きれいな水で育ったので臭いもまったくなく、その美味しさは驚きでした。近い将来、関ナマズの蒲焼が世にデビューする日がやってくるかも。それまでに美味しそうなネーミングを考えなければ・・・